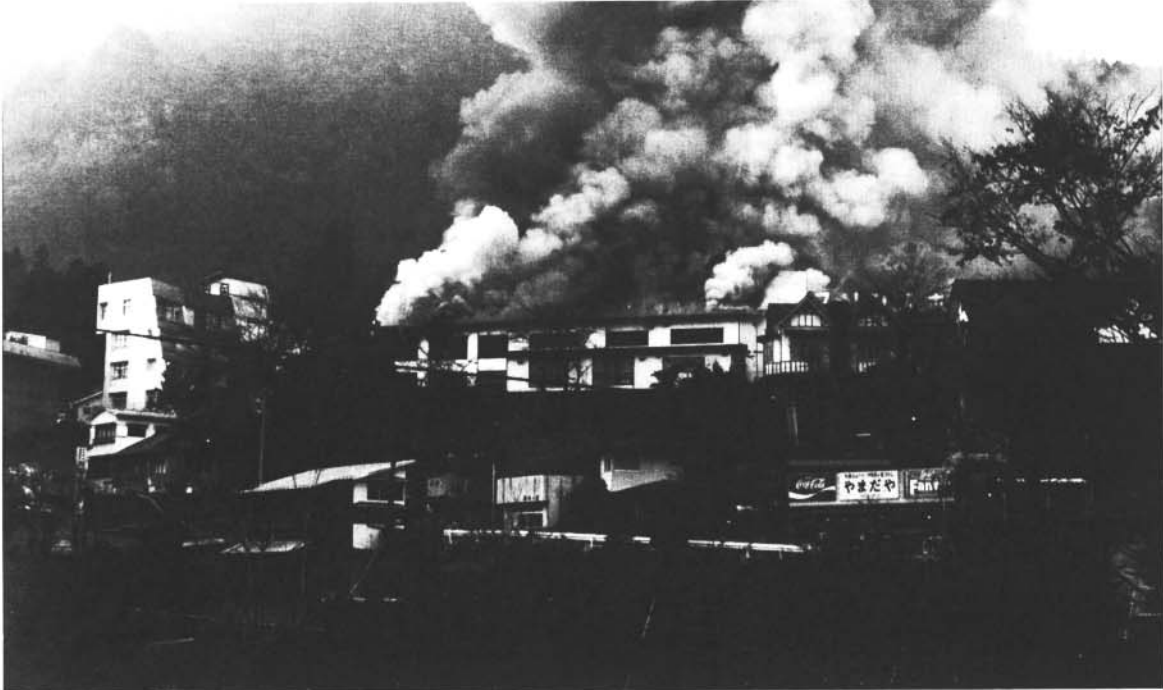


栃木県藤原町 川治プリンスホテル



1. 火災の特色

当ホテルは、増改築が繰り返し行われ内部が複雑で、火災発見時に適切な行動が行われなかったため、昼間に発生したにもかかわらず死者45名を出す火災となったものである。この火災を契機として、昭和56年から防火基準適合表示制度（適マーク）が発足した。

2. 出火日時等

- (1) 出火日時
昭和55年11月20日（木）15時15分ごろ
- (2) 覚知日時
昭和55年11月20日（木）15時34分（119番通報）
- (3) 鎮火日時
昭和55年11月20日（木）18時45分

3. 火元の概要

- (1) 所在地
栃木県塩谷郡藤原町大字川治45番地
- (2) 火元建物等の名称
川治プリンスホテル 雅苑
- (3) 火元建物の構造、形態等
 - ① 建築年月日

昭和39年 7 月

② 増改築の状況

昭和39年、43年、54年、55年に増築

③ 建物用途

ホテル（5 項イ）

④ 構 造

鉄骨造 4 階建

⑤ 面 積

ア 建面積1527.12m²

イ 延べ面積3582.42m²

⑥ 各階の床面積、用途及び在館者数

階	床面積	用途(売場)	在館者			死者
			宿泊客	従業員	工事人	
R	29.15	塔 屋				
4	371.65	客 室	46	18		29
3	371.65	客 室	51			5
2	1,282.85	客室・大広間	10		4	4
1	1,527.12	大広間・浴室 フロント・ホール	6		8	7
合計	3,582.42		143			45

(4) 消防設備等の設置状況

① 消火設備

消火器、屋内消火栓設備

② 警報設備

自動火災報知設備、漏電火災警報器

③ 避難設備

誘導灯及び誘導標識

(5) 防火管理の状況

① 防火管理者

未選任

② 消防計画書

届出なし

③ 避難訓練

実施していない

4. 気象状況

(1) 天候

晴れ

(2) 風位、風速

風位：北西 風速：1.0m/s

(3) 気温、湿度

気温：8.8℃ 湿度：50%

(4) 警報・注意報

なし

5. 出火原因

(1) 発火源

アセチレンガスの炎

(2) 経過

鉄柵溶断中の炎が外壁間隙に流入したため

(3) 着火物

外壁間隙内可燃物

6. 損害状況

(1) 人的被害状況

死者45名（男：9名 女：36名）

(2) 物的損害状況

① 火元建物

ア 焼損程度 全焼

イ 焼程面積 4階建3582.42㎡全焼

ウ 損害額 約533,750千円

② 類焼建物

なし

7. 火災の経過（火災の様態）

(1) 出火場所等の状況

新館西側に接続する婦人風呂外側の旧露天風呂用地で、建設会社の作業員が外壁転落防止用の鉄柵を改修のため建物外壁に沿ってアセチレンガス溶断機で溶断中であった。

(2) 出火に至るまでの経過

鉄柵溶断中の炎が外壁間に入り、その間隙から出火し、壁体内を火炎が上昇し婦人風呂屋根裏に拡大した。

(3) 火災発見の経緯

観光バス運転手が2階の廊下に出たとき、風呂場階段付近に異臭を感じ、そのことをフロントに告げ、確認のため2人で218号室の窓から下を見て白い煙が出ているのを発見した。

(4) 消防機関への通報状況

フロント係Sの名で119番通報されている。

(5) 初期消火の状況

① 従業員数名で水バケツ及び泡消火器2本を使用した効果がなかった。

② 数名で屋内消火栓設備を使用しようとしたが、使用できなかった。

(6) 死者の状況

宿泊客への火災の通報が遅れたため、火災に気づき避難しようとした時には、廊下はすでに煙が充満しており、退路を断たれてしまい、再び部屋の方に戻る途中あるいは部屋で煙に巻かれ死に至ったものと考えられる。

なお、死者の大多数は高齢者である。

(7) 避難の状況

① 宿泊客のうち、従業員や協力者の誘導で救出された12名を除き、助かった者のほとんどは屋上へ避難し、そこから屋外螺旋階段を使用して避難している。

(8) 自衛消防隊の活動状況

防火管理者未選任、消防計画未作成、避難訓練も行われておらず、その結果火災時に、初期消火、避難誘導等いずれも効果ある対応がなされなかった。

(9) 火災拡大の状況

婦人風呂屋根裏に達した火炎は、新館2階への階段の天井及び側壁を伝わり、新館2階廊下を東方に拡大し、新館と旧館の連絡通路（防火戸なし）を経て旧館に拡大し、さらに中央階段及び西側階段を上昇して3階・4階へ拡大した。

新館と旧館の連絡通路に防火戸がなかったことと、旧館の2階と4階の中央及び西側の各階段に防火区画がなかったことも延焼拡大を早めた理由のひとつである。

8. 消防機関の活動状況

(1) 出動隊等

① 出動車両	消防ポンプ車	17台
	梯子車	1台
	救助工作車	1台
	ポンプ積載車	21台
	救急車	1台
	司令車等	2台
	計	43台

② 出動人員

ア 消防職員	42名
イ 消防団員	385名
計	427名

(2) 消防機関の消火・救助活動の状況

① 消火活動

ホテルが崖の上であり、隣接家屋も密集し、加えて消防水利も悪く消防活動が困難であった。

② 救助活動

消防隊等が到着したときは、ほとんど全館に火煙が充満しており、館内の進入は不可能な状態であった。救助隊員が空気呼吸器を着装して、玄関または階段等から進入をこころみましたが、落下物と熱気により屋内進入は困難であった。

9. 問題点・教訓

- (1) 出火当日、自動火災報知設備の増設工事をしており、工事でベルが鳴動したため、本火災時も従業員は工事によるベル鳴動と思い、客に対して「只今のはベルの訓練です」と告げる等、工事状況の把握が不徹底であった。
- (2) 多数の宿泊客を収容する施設にかかわらず、防火管理者の未選任、消防計画未作成、避難訓練未実施等、防火意識が低かった。
- (3) 大規模な増改築が繰り返しおこなわれ、避難路が複雑で迷路のような状態になっていたうえ、屋内階段には防火区画がなく、火煙の拡大が早く避難を困難にした。
- (4) 宿泊者の多くは高齢で、上層階に居り、またホテルに着いたばかりであったため、館内の状況にも不慣れであったため、多数の死傷者が出た。

10. 資料

図-1：配置図

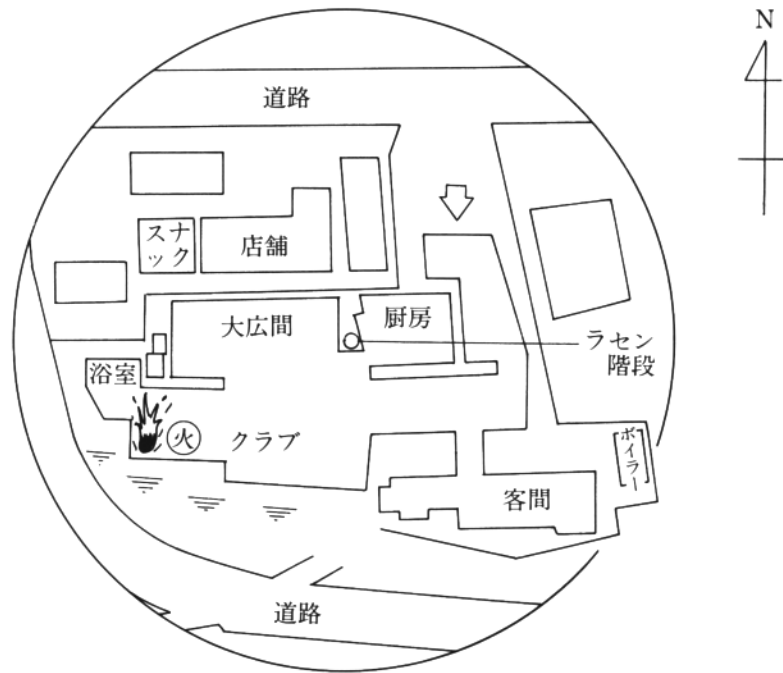


図-2：1階平面図

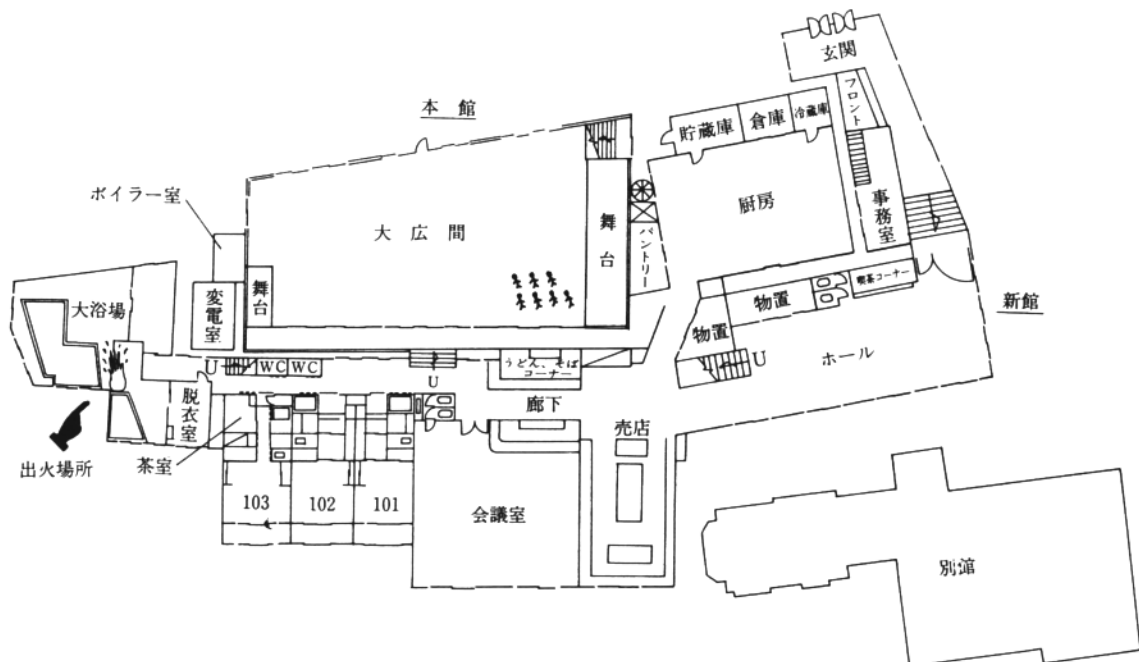
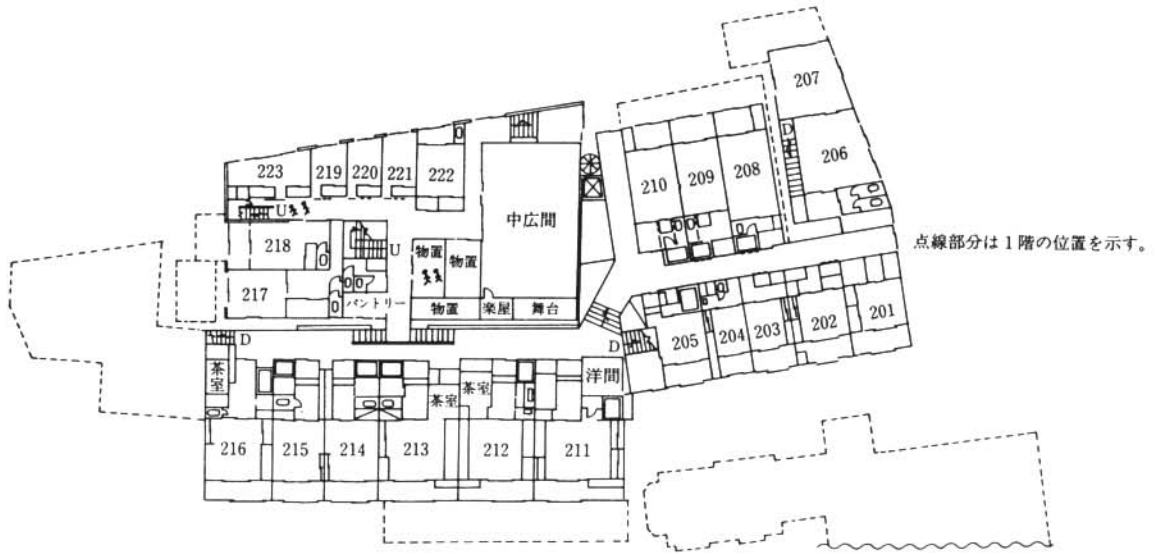
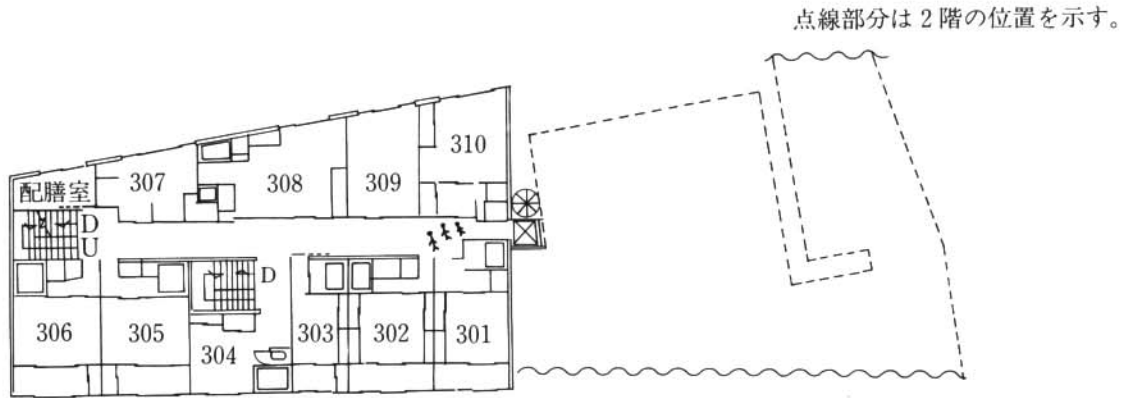


図-3 : 2階平面図



点線部分は1階の位置を示す。

図-4 : 3階平面図

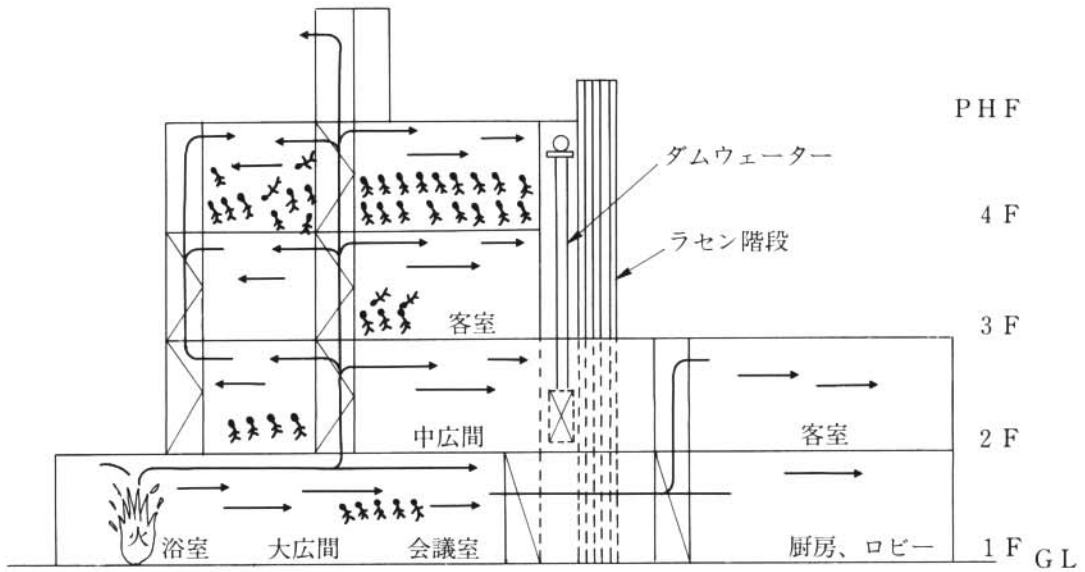


点線部分は2階の位置を示す。

図-5：4階平面図



図-6：断面図



※死者は45名。なお、2名は未記入である。(平面図も同様である)